

国分寺

9月27日（火） 晴れ

★ 5月例会で城南五山へ行って以来4カ月ぶりの例会である。午後1時半に常連の7名が西国分寺駅の改札前に集合した。

★ 駅を出てすぐ左へ進み、武蔵野線のガードをくぐり、府中街道を横断して少し行くと広々としたバスロータリーがある。ロータリーの先の交差点の角に日本芸術高等学園のモダンな校舎があり、その裏に「東山道武蔵路遺構再生展示」がある。

ここには奈良時代に制定された五畿七道のひとつ、東山道の枝道である東山道武蔵路の遺構が展示されている。この道は上野国から武蔵国府へ南下する幅約12mの直線道路で、国分寺市内を南北に通過していた。ここでは、当時の道路造成面を型取りして復元したレプリカを作成し、遺構と同じ位置で高さを上げて展示してある。



再生展示場の外観



東山道武蔵路の遺構



遺構の説明板

★ 展示場の北側は中央線で遮られているが、南側には広い道路が続いている。車道より歩道の方が広い道で、車も歩行者も殆ど通らない静かな道である。左手には東京都多摩図書館、東京都公文書館が並んで建ち、右手には高層アパートが立ち並んでいる。高層アパートの前の道路の一面には「東山道武蔵路解説板」があり、この道の成り立ちや歴史などについて詳細に記述してある。



東京都多摩図書館



東山道武蔵路解説板（出土した石を使っている）

★ 広い通りを更に南下すると多喜窪通りと交差するので、ここを左折すると間もなく都立国分寺公園である。入口から緩やかに坂を登って行くと円形の芝生広場や武蔵の池という池がある。池に沿って藤棚やノウゼンカズラの棚があり、散歩やジョギングを楽しむ人がいる。初秋の長閑な午後のひとときである。

この公園は多喜窪通りを挟んで南北に分かれているが、連絡橋で繋がっている。橋を渡って南側へ来ると、こちらは桜、ケヤキ、イチョウなどの高木の林である。あちこちに彼岸花が咲いている。



武蔵の池



藤棚



彼岸花

- ★ 国分寺公園の南端から出ると急な坂道を下ることになる。国分寺崖線（ハケ）である。下りきった所が真姿の池湧水群である。ハケの下端からコンコンと清冽な水が湧き出している。「お鷹の道」と称する遊歩道に出て、200mほど右へ行くと国分寺がある。国分寺は真言宗豊山派の寺で、分倍河原の合戦で焼失したが、新田義貞の寄進により薬師堂が再建され、江戸時代には徳川幕府の庇護を受けた。本堂前には万葉集に歌われた植物が歌とともに展示されている。門前には楼門が建っているが、これは明治時代に東久留米市の米津寺から移築されたものである。楼門を抜けて100mほど行くと武蔵国分寺跡である。741年（天平13年）、聖武天皇は鎮護国家を祈念して、諸国に国分寺と尼寺を建立するよう命じた。武蔵国では国府に近い東山道武蔵路沿いのこの地が選ばれた。



真姿の池湧水群

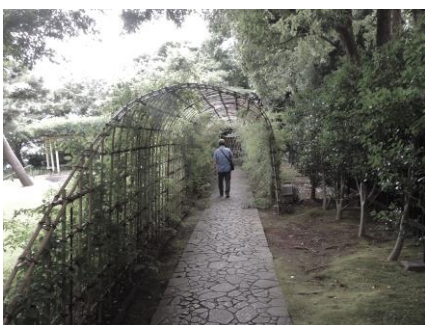


国分寺



武蔵国分寺跡

- ★ 湧水池から流れ出る小川に沿ってお鷹の道が続いている。この道はやがて小川と別れて住宅街に入り、坂道を登って行くとJR国分寺駅に出る。駅前には都立殿が谷戸庭園ある。国分寺崖線上に作られた庭園で、湧水や雑木林の風致を活かした静かな庭園である。



萩のトンネル



竹の小径



次郎弁天池

- ★ 散策を終わったのは4時半過ぎ、約3時間の散策であった。国分寺駅前の「北海道」という名の居酒屋で冷たい生ビールで喉を潤し、北海道産の美味しいものを堪能した。店を出たのが8時過ぎで、歩いた時間よりも飲んでいただけの方が長かった。



国分寺楼門前で

今回は2人の俳人から俳句を頂きました。

水の秋 せせらぎ清か お鷹道

真姿の池 湧水澄めり こんこんと

萩の花 竹のアーチに 絡みをり

野鳥の森 紅白混じる 彼岸花

志賀 勉

おはぐろや 真姿池に 影深し

はけの森 アイスコーヒー ミルク入れ

オミナエシ 武蔵の国の 国分寺

烏瓜 競うがごとく 木を登り

伸び伸びと 谷戸の小池の アメンボウ

桑田 青三

写真と文 小島恕雄

参加者 桑田制三、小島恕雄夫妻、志賀 勉、牧野昭夫、水野 聡夫妻

以上7名